

令和2年7月22日

流域治水の最前線 シンポジウム 温暖化時代の水害政策を求めて

平野部の七割が河川洪水で成り立っている日本では、古来より、水の恵みと災いは常に背中合わせで、人びとの暮らしの近くにありました。そこでの自然観は、洪水を力づくで封じ込めるのではなく、洪水の仕組みをよく知りながら、洪水を水害にしない知恵と工夫に満ちていました。しかし、明治時代以降の近代的な国土開発の中では、洪水を河川内部に閉じ込めて、川の外の土地を出来る限り有効に利用するため、自然制御を目的とする河川の施設化が進みました。その結果、人口増による急激な都市化が進む中でも、かなりの洪水制御が可能となりました。

近年、温暖化の影響とも言える豪雨が多発し、これまでの自然制御型水害政策に大きな見直しが迫られています。そのときに有効であるのが、土地に根差した先人の知恵に学びながら、流域のリスクを正しく知り、広く知らせることで、河川の中だけでなく、人が暮らす流域の土地利用や建物づくり、避難体制などに工夫をこらし、命と財産を守る「流域治水」の仕組みです。

本シンポジウムは、河川政策の歴史と思想を確認した上で、国や自治体で進む流域治水政策の現況と、住民の立場からのリスク対応の在り方もふくめた流域治水の最前線を学び、今後の行政や地域計画にひろげることを目的とします。国としても7月17日には不動産取引時のハザードマップの説明義務化を決めました。

折しも7月上旬より、九州はじめ全国で記録的豪雨により、多くの死者が出ております。亡くなられた皆さまのご冥福を心からお祈りさせていただくとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

立場をこえた、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

次 第

日 時 : 令和2年(2020年)7月22日(水) 14時～17時

14時 開会挨拶 荒井 聰 衆議院議員・シンポジウム実行委員長

14時5分～14時45分 第一部：基調対談 高橋裕著「国土の変貌と水害」から50年
～治水政策子孫三代から見る日本の河川政策の歴史と思想～
大熊 孝 (新潟大学名誉教授)
篠原 修 (東京大学名誉教授・政策研究大学院大学名誉教授)
(進行：嘉田由紀子：参議院議員、前滋賀県知事)

14時45分～14時50分 休憩

14時50分～16時30分 第二部：学会と行政の現場から (講演各25分)

講演①土木学会 (知花武佳 土木学会台風19号災害総合調査団幹事長・東大准教授)
「土木学会台風第19号災害総合調査団の提言に見る流域治水」

講演②国土交通省(森本輝 水管理・国土保全局 河川計画課 河川計画調整室長)
「気候変動を踏まえた水災害対策について」

講演③滋賀県 (吉田秀範 土木交通部長・速水茂喜流域治水政策室長) 【遠隔】
「滋賀県での流域治水条例制定と今後の課題」

講演④福知山市造成地水害弁護団 (上田敦 弁護士・浅井勇希 弁護士)
「福知山市造成地水害訴訟の意義と課題」

*講演④につきましては、裁判が継続中ですので、概要であっても、対外的に
公開することを控え頂きたく、御願致します。

16時30分～16時55分 質疑応答 (進行 嘉田由紀子)

16時55分 閉会と感謝の辞 大河原雅子 衆議院議員・シンポジウム実行委員会副委員長

場 所 : 参議院議員会館 (1F) 講堂 (東京都千代田区永田町2-1-1)

主 催 : 流域治水シンポジウム実行委員会
衆議院議員 荒井 聰 (委員長)
篠原 孝 (副委員長)
阿部知子 (副委員長)
近藤昭一 (副委員長)
大河原雅子 (副委員長)
参議院議員 嘉田由紀子

協 力 : 公共事業チェック議員の会

第一部 基調対談 講師紹介

篠原 修 しのはら おさむ

GS デザイン会議 | EA 協会 会長 工学博士

1968年 東京大学工学部土木工学科卒業

1971年 東京大学工学系研究科修士課程修了

1971年 (株)アーバン・インダストリー勤務

1975年 東京大学農学部林学科助手

1980年 建設省土木研究所研究員

1986年 東京大学農学部林学科助教授

1989年 東京大学工学部土木工学科助教授

1991年 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授

2006年 政策研究大学院大学教授、東京大学名誉教授

最近の主な著書：

2003年「都市の未来」（編、共著）、日本経済新聞社

2003年「土木デザイン論」、東京大学出版会

2005年「都市の水辺をデザインする」（編、共著）

2006年「篠原修が語る日本の都市 その近代と伝統」

2007年「ものをつくり、まちをつくる」（編、共著）

2008年「ピカソを超える者は一景観工学の誕生と鈴木忠義」、技報堂出版

2018年「河川工学者三代は川をどう見てきたのか—安藝皎一、高橋裕、大熊孝と近代河川行政—五〇年」（農文協）



出典 エンジニア・アーキテクト協会HPより
一部転載 (<http://www.engineer-architect.jp/member/list/124/>)

大熊 孝 おおくま たかし

新潟大学名誉教授・水の駅ビュー福島潟名誉館長
NPO 法人新潟水辺の会顧問・日本自然保護協会参与
(財) こしじ水と緑の会 (理事)

1942年台北生まれ、高松・千葉育ち、新潟市在住、1974年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(工学博士)、新潟大学工学部助手、講師、助教授、教授を経て、2008年新潟大学名誉教授、同年新潟日報文化賞受賞 専門は河川工学・土木史、自然と人の関係、川と人の関係を地域住民の立場を尊重しながら研究している。著書に、

- ・「利根川治水の変遷と水害」（東大出版会、1981）、
- ・「洪水と治水の河川史」（平凡社、1988、文庫本2007）、
- ・「川がつくった川・人がつくった川」（ポプラ社、1995）、
- ・「技術にも自治がある—治水技術の伝統と近代—」（農文協、2004）
- ・「社会的共通資本としての川」（東大出版会、2010、編著）、
- ・「みんなの潟学」（新潟市、2018、編著）、
- ・「洪水と水害をとらえなおす—自然観の転換と川との共生」（農文協、2020）などがある。



撮影：横関一浩 2020

第二部 講師紹介

知花 武佳（ちばな たけよし）

東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 河川/流域環境研究室准教授、博士（工学）
1975年兵庫県生まれ。1994年私立灘高等学校卒業。1998年東京大学工学部土木工学科卒業。
2000年東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻修士課程修了。2003年東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻博士課程修了，博士（工学）。2003年東京大学大学院工学系研究科 学術研究支援員。2003年東京大学大学院工学系研究科助手。2004年東京大学大学院工学系研究科講師。2010年東京大学大学院工学系研究科准教授。主に河川地形について研究しつつ，河川流域における人のくらしや生業についても調べている。一級河川の本川はすべて源流から下流まで視察をしている。

森本 輝（もりもと あきら）

国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 河川計画調整室長
1968年兵庫県生まれ。1990年京都大学工学部土木工学科卒業。1992年京都大学大学院 工学研究科 土木工学専攻修了。1993年建設省入省。1999年徳島工事事務所河川環境課長、2001年四国地方整備局河川計画課長、2003年国土交通省河川環境課課長補佐、2009年在オーストラリア日本大使館一等書記官、2012年三重河川国道事務所長、2015年内閣府防災調査・企画担当企画官、2017年以降、現職。

吉田 秀範（よしだ ひでのり）

滋賀県土木交通部長
1994年 京都大学大学院卒。1994年 国土交通省採用。2016年 国土交通省国土政策局広域地方政策課調整室長。2017年 国土交通省国土技術政策総合研究所高度道路交通システム研究室長。2018年 滋賀県土木交通部技監。2020年 滋賀県土木交通部長。

速水 茂喜（はやみ しげき）

滋賀県土木交通部流域治水政策室長
1988年 金沢大学卒。1988年 滋賀県採用。2018年 滋賀県甲賀土木事務所長。2019年 滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室長

上田 敦（うえだ あつし）

2002年弁護士登録。京都弁護士会所属。上田・小川法律事務所共同代表。主に、建築紛争事件、不動産事件、中小企業法務を手がける。欠陥住宅京都ネット事務局長、京都弁護士会住宅紛争審査会紛争処理委員、京都府住宅審議会委員。2015年度京都弁護士会副会長。福知山市造成地水害訴訟弁護団事務局長。

浅井 勇希（あさい ゆうき）

2007年弁護士登録。滋賀弁護士会所属。2013年草津ゆうひ法律事務所開所。マチ弁として活動し、交通事故事件、建築紛争事件、不動産事件、刑事事件などを手がける。草津・甲賀・東近江保健所感染症診査協議会委員、草津市国際交流協会監事などを歴任。「言葉を忘れた父の「ありがとう」 前頭側頭型認知症と浅井家の8年」出版。福知山市造成地水害訴訟弁護団員。

参考文献 紹介

<参考文献>

- ・篠原修『河川工学者三代は川をどう見てきたのか 安藝皎一、高橋裕、大熊孝と近代河川行政 150 年』、2018 年、農山漁村文化協会
- ・大熊孝『洪水を水害にとらえなおす 自然観の転換と川との共生』、2020 年、農山漁村文化協会
- ・大熊孝『洪水と治水の河川史 水害の制圧から受容へ』、1988 年、平凡社
- ・高橋裕『国土の変貌と水害』、1971 年、岩波書店
- ・高橋裕『川と国土の危機——水害と社会』、2012 年、岩波書店
- ・嘉田由紀子（語り）・古谷佳信（構成）『生活環境主義で行こう！—琵琶湖に恋した知事』、2008 年、岩波書店
- ・嘉田由紀子 『命をつなぐ政治をもとめて—人口減少・災害多発時代に対する<新しい答え>』、2019 年、風媒社
- ・土木学会台風 19 号災害総合調査団『台風 19 号災害を踏まえた今後の防災・減災に対する提言～河川、水防、地域・都市が一体となった流域治水への転換～』
2020 年 1 月 23 日
- ・国土交通省 水管理・国土保全局 『事前放流ガイドライン』令和 2 年
(2020 年) 4 月
- ・河川審議会『流域での対応を含む効果的な治水の在り方について (中間答申)』
平成 12 年 (2000 年) 12 月